

社会科学学習指導案

日時 平成22年12月6日(月) 6校時
生徒 泊村立泊中学校 1年A組 14名
授業者 教諭 白濱 哲

1 単元名 「第2編 いろいろな地域を調べよう 2 都道府県を調べよう」

2 単元について

地理的分野の第1編「地球、世界そして日本」では、地球、世界そして日本のあらましについて学習してきた。位置や季節や時刻などを地球規模で捉えること、そしてさらに世界を大局的に捉え、その中の一国としての日本についておおまかに学習してきた。第2編では、日本と世界のいろいろな地域の学習を深めていくこととしている。学習を深めていく上で欠かすことができないのが、何をどのように調べていくか、調べ方・学び方である。

本単元の1では、「地域をながめて」というテーマで、地域の調べ方の具体的な方法、さらにはその発表の仕方について学習を深めていく。これまでの授業では基本的な資料の読み取りとして、まずは地形図を採り上げた。

社会科の資料を読み取っていく上で、地形図の読み取り方は押さえていなければならないことである。主な地図記号や方角、等高線や縮尺などの基本的な知識を理解させるために、泊村の25000分の1、50000分の1、さらに東京都の中心部の同縮尺の地形図を用いて、班活動を行った。地図帳の基本的な調べ方については1学期で学習しているので、先の地形図と地図帳の地図を比較させながら、それらが表している内容について理解させることとした。

単元の2では「いろいろな都道府県を調べよう」というテーマで、東京都・北海道・鹿児島県の3カ所について、地形や各産業といった小テーマのもと学習を深めていく。単元の3「世界の国を調べよう」では、アメリカ合衆国・中華人民共和国・オランダの3カ国をとりあげ、同じく小テーマについて 学習を深めていくことになる。

さて、本時が含まれる「都道府県について調べよう」という単元で採り上げる東京都・北海道・鹿児島県は、日本の地域として考えると、位置は両端と中央である。東京都は日本の首都としての機能を備えた大都市である一方、北海道と鹿児島県は地域性の相違点こそあるが、地域としての特色は産業の面を見ると似ていると言える。

このように、様々な特色を捉える学習を進めていく上で中で重要視していきたいのが、他と比較しながら調べることで、考える力を身につけていくことだと考えた。また、考える力を身につけていく上で重要視したいのが、情報を得るための手段について学び、そこから得られる情報を正しく判断するということである。そのために本単元では、様々な資料を用いていくこととした。まず東京都の学習の中で、関東地方の自然の特色について考えさせるために、地図帳の地図の色分けに注目させた。それらを確認する作業としてグーグルアースを用いて地形の高低を見せた。関東地方に行ったことがある生徒自体も少数だが、飛行機で上から眺めたとしてもなかなか地形の高低についてはイメージが浮かばないのではないかと考えたからだ。このソフトを用いることで、地形の立体像をイメージすることができたと考える。またその映像により山間部と平野部の区別ができ、人間の居住地や展開されている産業についても予想させ、確認していくこととした。産業に大きく関わる要因としてその地域の気候がある。本単元では地域の気候を予想させるための手段として、グラフの読み取りについても採り上げた。平均気温と年間降水量の数量と推移から、その地域の気候の特色について予想させ、全員で確認していく学習を行った。その際、テレビの天気予報も重要な情報源となった。

資料の読み取りには時間がかかる。ある程度の時間は保障しながら、適宜教師サイド主導の形で学習を進めていきたいと考えている。授業で必要となる資料を精選し、効果的に用いることによって、生徒による、「予想・比較・確認(整理)・理解」という学習の流れの定着を図りたいと考えている。

3 生徒の実態

中学校に入学して初めての授業で、「社会科が嫌いな生徒は？、または苦手な生徒は？」と質問してみた。

14名中の7割から8割の生徒が挙手したのを覚えている。それ以来、最低でも「嫌い」と答える生徒をなくしたいという思いで授業を行ってきた。そのため、毎時間の授業は、できるだけ時間をかけて丁寧に進めることを心がけている。社会科が明らかに苦手な生徒については、小学校で学習してきた内容についても、覚えている知識は希薄である。そこで、地理ではできるだけ身近な題材を採り入れ、イメージがわくように。

歴史ではエピソードを交えながら、できるだけ現在の人間の気持ちに置き換えて説明するようにしている。

また、挙手をさせて発表させる場面、自由に意見を出させる場面、黒板に出て答えを書かせる場面、指名して解答を求める場面などを題材によって使い分けている。自信がない生徒が多かった中で、当初できなかった生徒、やろうとしなかった生徒が少しずつ挙手をして発表したり、板書したりするようになってきた。

この点が最も評価できることではないかと考えている。今後は、自信がないために積極的になりきれない生徒が、間違えても恥ずかしくないんだと考えられる、一層の雰囲気作りにさらに取り組んでいきたい。

調べ学習や質問に対する解答を生徒に求める場面では、目の前の資料のどこを探すと解答が得られるのか、つまり資料を適切に活用する力が必要である。本クラスの生徒は、この点を苦手とする生徒が多く、そのため解答までに時間を要する。その点で兼ね合いを考えながら、活用する力を育てていきたいと考えている。

本時は、様々な資料を活用して、北海道の自然の特色について考えていくことをねらいとした授業である。

北海道で生活している人間として、肌身に感じたり、見たりしたことがあるという経験から導かれる考えの他に、広い北海道の自然には地域によって特色があり、相違点もあるということを生徒が理解できる授業にしたいと考えている。

4 研究の視点とのかかわり

(1) 視点1 問題解決的な学習を効果的に取り入れた単元構成の工夫と単元の評価

北海道で暮らす住民として、北海道の自然が他の都府県と比較してどのような特色をもっているかをイメージすることは決して難しいことではない。しかし、その特色のイメージとは、自らの感覚で培われてきたものであると言える。本時は、そのイメージを、様々な地図やグラフなどの資料を適切に調べたり活用したりすることで、より明確にしていくことをねらいとしている。

提示された課題に対して、これまでの感覚や知識から得られたイメージや予想を持つ。様々な資料を検証したり、班内で意見を交流することによって、自らの考えとの相違点や共通点を得る。さらに学級全体で意見を交流することにより、考えを発展させていく。そのような流れを大切に授業を展開していきたいと思う。

また本時は北海道の自然の特色を捉えることを目標としているが、生徒の捉え方は大まかで良いと考えている。

その大まかな捉え方を導き出すために資料を適切に活用するという、そして暗記に頼らず、資料の活用の仕方や見方をおさえることで、予想や解答を導き出せるということを生徒が理解できるように努めたいと考えている。

(2) 視点2 言語活動を意図的に計画的に設定した学習過程とその指導のあり方の工夫

北海道の自然の特色を捉えるために、第1段階は経験やイメージから予想させる。それを確認する作業として、第2段階は、地図帳やグーグルアースの地図やグラフを用いて検証する。第3段階として、自らもしくは班で導いた内容を発表、交流することで、さらに考えを深めていく。最終的に考えを整理し、まとめる。

北海道という身近な地域の特色も、資料を適切に活用し、意見を交流することにより、他との違いをさらに明確に理解することができる。そのために本時は「資料の活用」「考えの検証」「意見の交流」「意見の発表」「考えのまとめ」などの言語活動が活発に行われてこそ、目標が達成される授業と言える。

授業の中の言語活動において、生徒は多くの戸惑いを見せることになると思う。しかし、適宜支援することで、特色が大まかに捉えられるように指導していきたい。

5 本単元の目標

- 都道府県に対する関心を高め、その調査に意欲的に取り組み、都道府県の地域的特色を捉えようとしている。
- 都道府県の地理的事象から課題を見出し、それを環境条件や人々の営みなどと関連づけて多面的・多角的に追求するとともに、都道府県規模の地域的特色を捉える視点や方法を考察している。
- 都道府県に関する地図や統計その他の資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して活用するとともに、都道府県の地域的特色を追求し考察した過程や結果をまとめたり、発表したりしている。
- 都道府県の地域的特色とともに、都道府県規模の地域的特色を捉える視点や方法などを理解し、それらの知識を身につけている。

6 本単元の評価規準と評価計画

評価規準

関心 意欲 態度	○東京都のあらまし（自然や地形、地名など）について関心を持ち、意欲的に調べることで、首都としての役割を理解することができる。 ○北海道のあらましや歴史に関する事項について関心を持ち、意欲的に調べることを通して、地域の特色を理解することができる。 ○鹿児島県のあらましについて関心を持ち、意欲的に調べることで、与えられたテーマについて調べることができる。
思考	○自然条件や社会条件と関連させて考えることができる。
技能	○地域の自然の特色について、地図やグラフなどの様々な資料から予想し、考えを整理することができる。 ○整理した考えを、自分の言葉で表現することができる。
知識	○地域の特色（自然・歴史・産業）についてわかる。

評価計画

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
①関東地方のあらましについて、意欲的に調べている。	②人口が多いことのメリットとデメリットについて考えることができる。	③京浜工業地帯の産業別出荷額のグラフを作製することができる。	①首都の役割について整理する。

<p>④鹿児島県のあらましについて、意欲的に調べている。</p> <p>⑧パソコンを使って意欲的に、各班が設定したテーマについての情報の収集に当たっている。</p> <p>⑨⑩意欲的に情報の収集に当たり、班活動に積極的に参加しようとしている。</p> <p>⑪発表者の発表に耳を傾け、熱心に話を聞いている。</p>	<p>⑦北海道の自然の特色を大まかに捉えることができる。</p> <p>⑧必要な情報は何か、それをどのようにまとめるか、班ごとによく話し合って整理することができる。</p>	<p>⑦様々な資料を活用・検証し、自らの意見を仲間と交流したり、発表したりすることができる。</p>	<p>⑤鹿児島県の環境と産業について、火山との関わりから、その特色を理解できる。</p> <p>⑥日本全国には多くの離島があること、そしてそこでは特色を活かした生活や産業が行われていることを理解する。</p>
---	--	--	--

7 指導計画（11時間）

時	学 習 内 容	○教師の関わり・▽評価規準など
1	<p>1 テーマを決めて調べよう～東京都を例に～</p> <p>☆関東地方の自然の特色はどうなっているだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関東地方の地図を見て、自然状況について予想・発表する ・グーグルアースを見て、地形の高低や平野・川・湖などについて確認する。 <p>☆東京都の首都としての役割とは何だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・首都とは何か、意見交流をする。 ・地図帳を参考に、東京都に設置されている具体例（国会・各省庁・大使館など）を確認し、意見交流する。 ・東京都の役割を整理する。 ・自己評価をする。 	<p>○地図帳の色分けに注目するように指示する。</p> <p>○グーグルアースの映像を見せて、高低や川の流れなどの特色がわかるように提示する。</p> <p>言語活動 地形の予想について発表する。グーグルアース・地図帳で確認した地形について白地図に記入する。</p> <p>▽関東地方のあらましについて、意欲的に調べている。（関心）</p> <p>▽首都の役割について整理する。（理解）</p>
2	<p>2 人口から見た東京都</p> <p>☆東京都の人口の多さに関連して、どんなメリットとデメリットがあるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京大都市圏に含まれる地域の人口について、地図帳の巻末資料により調べる。 ・人口が多いことによるメリット・デメリットについて考える。 ・意見交流する。1人1つ、意見を発表する。 ・自己評価をする。 	<p>○東京大都市圏に含まれる大都市には何があるか、意見を出させながら確認し、調べさせる。</p> <p>○メリットとデメリットの考察では、全体のイメージが浮かぶようにヒントを適宜与え、さらに机間巡視をして意見をまとめさせる。</p> <p>言語活動 自分の意見を発表する。自分の考えになかった意見については、ノートにメモを取る。</p> <p>▽メリットとデメリットについて考えることができる。（思考）</p>
3	<p>3 レポートにまとめよう</p> <p>☆東京都の工業の特色は何だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京都が含まれる京浜工業地帯について、グラフを作製して、その特色を考え、整理する。（生産額の推移から、かつては1位だったが、現在は中京工業地帯に追い抜かれていることを理解する。） ・東京都内の工業について、教科書本文と資料より、特色を読み取る。 ・自己評価をする。 	<p>言語活動 京浜工業地帯の産業別出荷額のグラフを作製する。</p> <p>○グラフの作成の仕方について説明し、完成させるように指示する。</p> <p>○中小工場について、高い技術を持って世界にも注目されている工場がある一方で、長引く不況により厳しい経営を強いられている現状について説明する。</p> <p>▽グラフを作製できる。（表現）</p>
4	<p>1 テーマを関連させて調べよう～鹿児島県を例に～</p>	<p>○地図帳の色分けの意味を確認させ、</p>

- ☆鹿児島県の自然の特色はどうなっているだろう。
- ・鹿児島県の地図を見て、色分けや地形名から自然状況を予想し、意見を出し合う。
- ・グーグルアースを見て、地形の高低や平野・火山・離島
- ・白地図に地名を描き込み、色分けをする。

意見を出させる。
○グーグルアースの映像を見せて、地形の特色がわかるように提示する。

言語活動
鹿児島県の白地図に地名を記入し、色分けをする。

- ☆鹿児島県のおおまかな歴史について確認しよう。
- ・鹿児島県の独得な文化と、それに伴う歴史について整理する。
- ・自己評価をする。

○戦国時代以降の主な出来事や人物、文化について、小学校で習った記憶をたどりながら整理する。
▽鹿児島県のあらましについて、意欲的に調べている。(関心)

○火山が噴火することによって起こり得ることは何か、ヒントを与えながら意見を出させる。
○桜島火山防災マップを見ながら、火山対策について確認していく。

言語活動
防災マップを見て、対策について意見を出し合い、確認する。

○シラス台地について説明し、畑作が盛んに行われてきたことを理解させる。また、教科書のグラフを見せ、畜産業が盛んなことも合わせて理解させる。
▽鹿児島県の環境と産業について、火山との関わりから、その特色を理解できる。(知識)

○鹿児島県は離島面積と人口が全国1位であることを理解させる。
○離島のイメージがわからないときは都会生活と比較させながら考えさせる。

言語活動
離島の生活についてイメージし、意見を出し合う。

○世界遺産について説明し、その後教科書本文の記述をまとめさせる。
▽日本全国には多くの離島があること、そこでは特色を活かした生活や産業が行われていることを理解する。(知識)
○学習班の形をとらせる。

○地形の特色については、調べる・確認するなどの作業は各自で行わせる。班内で交流するのは認める。

○北海道の大まかな気候の特色について、考えをまとめさせる。

○北海道は広いので、地域によっては気候にもそれぞれ特色があることを理解させる。

5

2 環境と産業からみた鹿児島

- ☆鹿児島県の人々は、火山とどのように向き合って生活しているのだろうか。
- ・現在も活動している「桜島」という火山が身近にある生活とはどんなものか、イメージして意見を出し合う。
- ・火山と共生していくためには様々な苦労や工夫があることを理解する。
- ① 防災について
- ② 産業について・・・畑作、畜産
- ・自己評価をする。

6

3 イラストマップをつくろう

- ☆離島に住む人々はどんな生活をしているのだろうか。
- ・鹿児島県と離島の関わりについて、グラフなどの資料を使って調べる。
- ・離島に住む人々の生活で、苦労している点や工夫している点について意見を出し合う。
- ・屋久島が世界遺産に登録された理由を考える。
- ・自己評価をする。

7

1 ささまざまな視点から調べよう～北海道を例に～

- ☆北海道の自然の特色はどうなっているだろう。
- ・地域住民として、特色について意見を出し合う。
- ・地形について、地図帳の地図の色分けから、地形の高低や平野・山地・川などの位置を調べる。
- ・グーグルアースの地形図と地図帳の地図から、実際の高低や各地形の分布について確認する。
- ・気候について、札幌市のグラフから、北海道地方の気候の特色について意見を出し合い、班でまとめる。
- ・帯広市・網走市のグラフを札幌市のグラフと比較・検証することで、北海道の気候の特色について、さらに考えを出し合い、まとめる。

本
時

	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価をする。 	<p>言語活動 地図とグラフから、北海道の地形と気候の特色について調べたり予想させ、班で考えをまとめ発表する。</p> <p>▽北海道の自然の特色を大まかに捉えることができる。(思考) ▽様々な資料を活用・検証し、自らの意見を仲間と交流したり発表することができる。(表現)</p>
8	<p>2 農林水産業からみた北海道</p> <p>☆北海道ではその特色を生かして、どんな産業が発展しているのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道で発展している産業について、班ごとに調べる。 ① 農業・・・畑作、稲作を中心に。 ② 水産業・・・北洋漁業、養殖を中心に。 ③ 観光業・・・夏や冬の年間行事をイメージ、観光資源について。 <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価をする。 	<p>○それぞれの産業について、調べる中味を絞らせて取り組ませる。 ○インターネットのホームページについても適宜情報を与え、取捨選択させる。</p> <p>言語活動 パソコンを使って必要な情報を探し、班員と相談しながらまとめていく。</p> <p>▽パソコンを使って、意欲的に情報の収集に当たっている。(関心) ▽必要な情報は何か、それをどのようにまとめるか、よく話し合って整理することができる。(思考) ○机間巡視によって、各班の進行状況を確認しながら、作業させる。</p>
9	<p>3 旅行計画をたてよう</p> <p>☆北海道ではその特色を生かして、どんな産業が発展しているのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道で発展している産業について、班ごとに調べ、まとめの作業に入る。 ・自己評価をする。 	<p>言語活動 パソコンを使って必要な情報を探し、班員と相談しながらまとめていく。</p> <p>○役割分担について話し合わせる。発表の手順についても、各班ごと確認させる。 ▽意欲的に情報の収集に当たり、班活動に積極的に参加しようとしている。(関心)</p>
10	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめの作業に入る。 ・発表の仕方について、約束事をもとに話し合いを行い、担当を決める。 ・自己評価をする。 	<p>○発表班にその都度適切にアドバイスをを行う。基本としてまわりに伝わる声で発表させることに努める。 ○全ての発表が終了した時点で、班ごとに口頭で評価を伝える。今後につながるアドバイスを心がける。</p>
11	<p>発表会をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業班、水産業班、観光業班ごとにそれぞれ発表する。 ・発表者に注目し、適切な態度で発表を聞く。 ・感想用紙に、互いの班の感想を書く。 ・学習のまとめをする。 ・自己評価をする。 	<p>言語活動 ・班ごとのまとめを発表する ・発表を聞いて、感想を書く</p> <p>▽発表者の発表に耳を傾け、熱心に聞いている。(関心)</p>

8 本時案

(1) 本時の主張

本時の課題は、「北海道の自然の特色について考える」ことである。その中でも、地形と気候という2つのテーマについてとりあげることとした。北海道の学習の前に行った関東地方（東京都）と九州地方（鹿児島県）の自然の特色の学習から生徒は、地形については土地の高低や広がり、山や川、海などの観点から、そして気候については降水量と気温のグラフや、風、海流などの観点から、答えを予想し、考えを交流し、まとめてきた。

本時もその流れは変えないが、これまでの学習の内容より、身近な地域で暮らしている人間として、予想やイメージをより強く浮かべることが求めている。そして、自らの予想や考えを様々な資料で確認し、まわりの仲間と交流することで自力解決を図っていくこととした。北海道は自然が豊富であることは経験上わかっている生徒が、資料や仲間の意見・考えに触れることで、大まかではあっても自然の雄大さをつかんでくれれば良い。

この自然を活かすことで、農業や漁業、観光業といった各産業が発展していることに繋げていきたい。気候については、各地域のグラフを比較し、資料を活用することによって北海道の特色について考えさせていきたい。その際は、気温と降水量にまずは着目させたい。そこから得られた考えの裏付けとして、班内での活発な意見交流と資料を適切に活用する活動を期待したい。それらを通して、日本の中でも明らかに異なる北海道の気候の特色を考えさせていきたい。また、さらに考えを深める材料として、面積が広いことによる、地域間の相違について交流させたい。本クラスにはアイスホッケーの遠征で帯広市や釧路市を冬に訪問している生徒が数名いる。また私も過去生活していた都市でもあることから、互いの経験談を上手に採り入れながら考えていきたい。本時は、「適切な資料を活用する」「自分の考えを、経験や、資料を使うことでまとめる」「班内・クラス全体で自分の考えを発表しあう」「自分や班の考えを交流し、考えを深める」といった言語活動が、意図的・計画的に行われることによって、課題を解決することに繋がるものと考えている。

(2) 本時の目標

- ・北海道の自然の特色を、地形と気候という2つの観点から大まかに捉えることができる。{思考・判断}
- ・北海道の自然の特色について、様々な資料を活用して検証し、自らの意見を交流・発表することができる。{技能・表現}

(3) 本時の展開

○生徒の活動 ・ 学習内容	教師の関わり ▽主な評価規準
<p>課題の設定</p> <p>北海道の自然の特色はどうなっているだろう。</p> <p>学習班の形で配置</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域住民として、予想・イメージから意見を出し合う。 ○北海道の地形の特色について、地図帳、教科書の地図を見て考える。 <p>「自力解決」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本全国における北海道 ・地域の拡大図による北海道 ○グーグルアースの地図を見て考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・地形の高低 ・地図帳の地図の色分けの意味 <p>「仲間と交流」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えとの共通の部分と相違の部分をつかむ。 ○北海道の地形の特色について、考えを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・土地が広い。（平野が広い） ・中央部に高さが高い部分がある。 ・まわりを海で囲まれている。 ・大きな川は、中央部から海へ向かって流れ出ていく。 ・山（火山）が多い。・・・関連として、温泉がある。など ○地形のまとめをする。 <p>「班活動・・・自力から班内の交流へ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○北海道の気候の特色について、札幌市のグラフをもとに意見を出し合い、班で考えをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・平均気温から。 ・年間降水量から。 ・既習の東京都、鹿児島県のグラフとの比較 	<p>自然の特色を、地形と気候の2点から考えていくことを確認する。</p> <p>自由に意見を発表させる。適宜支援する。</p> <p>地形の特色については、まずは自力で資料を活用して考えをまとめさせる。</p> <p>言語活動</p> <p>様々な資料を活用し、地形の特色について考えをまとめる。</p> <p>班内での意見交流をさせる。発表者スムーズに発表できるようにするために、班内の意見をまとめさせる。</p> <p>▽様々な資料を活用して検証し、自らの意見を交流・発表することができる。（技能・表現）</p> <p>言語活動</p> <p>意見を発表し、まとめる。</p> <p>気候の特色について、班内で考えをまとめさせる。東京都、鹿児島県の既習した気候のグラフと比較すると考えやすい。比較をしたいという意見が出るのを待つ。出なければ、指示する。</p>

○班ごとに考えを発表する。

○発表された考えをもとに、気候の特色をまとめる。

- ・平均気温が低い。寒い。(気温がマイナスの時がある) . . . 真冬日
- ・冬の降水量が多い。 . . . 雪のため
- ・夏、秋の降水量が少ない。 . . . 梅雨がない。 台風が少ない。 など

「班活動 . . . 考えをさらに深める」

○配布された網走市・帯広市のグラフを見て、札幌市のグラフと比較・検証することで、気候の特色についてさらに意見を出し合い、考えをまとめる。

- ・年間降水量
- ・平均気温
- ・年間最高・最低気温

○教師と会話形式をとり、まとまった考えについて意見を発表する。

- ・帯広市は冬の降水量が少ない。 . . . 雪があまり降らない。
- ・気温は札幌市より寒い。最低気温が -20°C . . . 氷・スケート
- ・網走市は年間降水量が札幌市よりかなり少ない。 など

○気候のまとめ2をする。

地域によって、気候の特色には違いがある。

○自己評価をする。

- ・振り返りプリントの記入

言語活動

様々な資料を活用し、気候の特色について考えをまとめる。考えを発表する。

▽様々な資料を活用して検証し、自らの意見を交流・発表することができる。(技能・表現)

北海道の2つの都市、帯広市と網走市のグラフを配布し、意見をまとめさせる。

「何かこのグラフを見て、気が付くことはないだろうか」

考える視点について説明する。

言語活動

新しい2つのグラフを比較・検証して、考えをまとめる。教師と対話形式で自由に意見を出す。

▽北海道の地形と気候の特色について、大まかに捉えることができる。(思考・判断)

北海道の自然について、宿題のプリントを配布し、次回の授業で解答することを告げる。

(4) 板書計画

テーマ 「北海道の自然の特色について考えよう」

○地形の特色

- ・土地が広い
- ・(黄)緑色が多い。海岸沿いにある。) 農業との関連
- ・山(山脈)が内陸にある
内側が高くて、海側が低い . . . 川は内側から海に向かって
- ・まわりが海に囲まれている . . . 漁業との関連
- ・火山が多い . . . 温泉 ← 観光
災害

○気候の特色

- ・平均気温が低い ← 寒い . . . 真冬日 (最高気温がマイナス)
- ・冬の降水量が多い . . . 雪が降る
- ・初夏～秋の降水量が他より少ない . . . 梅雨・台風の影響が少ない
- ※ 地域による相違点
 - ・雪があまり降らない . . . 冬も比較的暖かい
 - ・気温がもっと低い . . . 氷が身近にある
スケート・流氷
 - ・大雪が降る . . . 雪かき・スキー

9 実践を終えて

これまでの授業でも、生徒による「意見を書く」「考えをまとめる」「意見を発表する」「考えを交流する」「資料から考える」などといった活動は、社会科授業のみならず、どの授業でも普通に行われてきたと考える。しかし、本研究はこれらの活動を「言語活動」として今まで以上に明確化し、教師により意図的・計画的に採り入れられることによって、生徒の「思考力」「判断力」「表現力」の向上を目指す、という狙いのもと実践されてきた。

本授業は、「北海道の自然の特色」について考え、まとめることを狙いとした。特色を①地形②気候 という2つのテーマから考え、まとめる内容で計画した。まずは北海道で生活している我々が、経験上もっているイメージを出させ、それらを資料からの判断と仲間と意見を交流させることで、自らでまとめさせた。

活用する資料を適切に選択させることにより、考える観点が明確になり、意見のまとめがしやすかったものと考えられる。さらに自らの考えを仲間と比較させることによって、自らの意見との違いについて考えるきっかけができたと思う。

覚えることが多くて社会科は嫌い、苦手という生徒がほとんどを占めていた段階からスタートした。覚えることは確かに多いが、暗記するだけではなく、答えを導き出すための方法や考え方を押さえていくことが大切だと伝えてきた。知識が少なく、資料の活用も不十分なために、聞かれた質問に対して何も答えられない生徒が多かった。自分の考えを発表するという活動自体、不足していたのではないかと思うこともあった。そこで重視したのは、「まずは考えてみる姿勢づくり」「間違えたとしても恥ずかしくない場の雰囲気づくり」「資料の活用の方法」「考える時間の設定」である。

本時では、課題解決のために使用する資料を教師が用意したが、活用の仕方に慣れてきたことで、以前は何も書けなかったが、自分の考えを少しずつでもまとめることができる生徒が増えてきた。そして、まとめるための時間が足りないために、考える時間の延長を申し出る生徒も増えてきた。その意味で主体的に学習しようとする生徒が増えてきたと実感している。

今後の課題は、言語活動のさらなる充実である。「意見を書こうとする」活動には、前提として知識を確実に定着させるための書いたり読んだりする活動が必要である。「考えてみる」活動には、資料の適切な活用が求められる。必要な資料の読み取り方を学び、どの資料を活用すれば材料が得られるかを判断する活動が必要である。

身近な題材、置き換えられる題材、自分で必要だと感じられる題材などの資料や教材を精選し、言語活動を計画的に実施することで、生徒の一層の主体的な学習活動を支援していきたいと思う。